

中経論壇

経営支援NPOクラブ
川上 博史



格の特性、将来への指向、コンプレックスや心的葛藤、不安、攻撃性などを推測する。

現役時代人事部に在籍していた頃、慶応義塾大学の佐野勝男教授に、SCT(文章完成法)というパーソナリティ全体を推測する心理検査の研究を受けたことがある。

未完成の文章(例:「私の父は……」)の続きを自由に書くことで、知能や性格、意欲、興味・関心、人生観など、心の安定性を含めたトータルな人間像を把握していく心理検査である。記述された文章を眺め、読み取ること

それによると、本来、各個人に備わっている変わりにくい気質は、タイプ別にS(分裂気質)、E(てんかん気質)、粘着気質)、Z(循環気質)に区分けされる。Sは、ヤセ

型、内向的で、物事を深く考え、対人関係は苦手の芥川龍之介タイプ。Eは、筋肉質、几帳面で、粘り強く、最後までやり遂げようとする責任感はあるが、融通がきかないという官僚やスポーツマンタイプ。Zは、肥満型、明るく社交的で活発、感情表現が豊か

心理検査でトランプ氏を読む

であるが、反面、躁鬱的な傾向がある。また、過去の経験から、実際の場面では他人を観察するなどの、気分のムラがみられるタイプ。こうした三類型の基本気質の他に、自己顕示欲などのヒステリー気質H、心配性などの神経気質Nを加えて、その人の性格を推測しようとする。

SCTは、この性格類型にプラスして、記憶力などとは異なる生きる知恵や、柔軟性の程度を推測するDIFF(略称)という検査で、個人のパーソナリティ全体を評価するというもので、当時流行っていた血液型性格検査より、精度が高く、実際の場面では他人を観察するときに役立つ手法だと感じられた記憶がある。

さて今年に入って、毎日のようにニュースに登場するトランプ大統領がSCT検査を受けたら、どんなタイプになるのかと勝手に推測してみると、基本は筋肉質のEタイプだが、その性格特性を大幅に上回るH(ヒステリック)の気質が強く、「俺が、俺が」が至る所で発せられることをみても、単なるヒステリーとは異なる強い自己顕示欲に固められた性格特性(略称:ゲルティング)を持つ人物ということになる。部下の言うことには耳を貸さないワンマン社長タイプで、イエスマンだけが周りを固めるのもこのタイプの特徴と言える。毎日、テレビニュースでのトランプ大統領の発言を聞いていると、典型的なゲルティングタイプのようだが、いかがだろうか。

自己顕示欲が、パワーハラを生む